

## 2026年ブロンテ・デイ公開講座プログラム

リーズ土産として木製の兵隊人形12体を父親のパトリック・ブロンテが子どもたちに与えた1826年6月5日からブロンテ文学が始まったとされています。この6月5日に近い6月の第1土曜日を日本ブロンテ協会は、本国イギリスの協会と歩調をあわせブロンテ・デイとし、専門家のみならず一般愛読者も集い、ブロンテ文学を愉しみ、味わうことにしています。本講座はその行事の一つであり、ブロンテ愛好者であれば十分愉しめる講座となっております。

日時： 2026年6月6日（土）14時00分～16時10分

会場： 早稲田大学戸山キャンパス 38号館 AV教室1

[https://www.waseda.jp/flas/cms/assets/uploads/2019/09/20181220\\_toyama\\_campus\\_map.pdf](https://www.waseda.jp/flas/cms/assets/uploads/2019/09/20181220_toyama_campus_map.pdf)

受付： 13:40

司会： 日本大学教授 田村真奈美

開会の辞： 14:00

日本ブロンテ協会会長、京都大学国際高等教育院副教育院長 廣野由美子

講演Ⅰ： 14:05～15:00

演題： シャーロット・ブロンテの自伝体小説

大阪大学准教授 馬淵恵里

本講演では、シャーロットの初期作品を概観しながら彼女が自伝体形式に辿り着く過程を確認したあと、『ジェイン・エア』（1847）と『ヴィレット』（1853）という2つの自伝体小説にみられる革新性とそこから浮かび上がる彼女の創作意識について考えてみたい。

休憩： 10分

講演Ⅱ： 15:10～16:05

演題： シャーロット・ブロンテと身体化された視覚—カメラ・オブスキュラからカメラへ

同志社大学文学部教授・同志社大学国際教養教育院所長 金谷益道

本講演では、19 世紀における視覚の捉え方の変化という歴史的背景を踏まえ、カメラ・オブスキュラの視覚から身体条件に依存する視覚への移行を明らかにし、シャーロット・ブロンテ作品におけるその具体的な現れを考察する。

閉会の辞： 16：05

日本ブロンテ協会前会長、大東文化大学名誉教授 栗栖美知子

■受講対象者： 協会員、ブロンテ文学に興味のある方、一般の方、学生

■受講料： 無料

■申込（参加登録）方法： 日本ブロンテ協会ホームページ（<https://brontesociety.jp/>）内にリンクのあるオンラインフォームで、5月1日（金）から5月29日（金）までに参加をお申し込みください。（期日は厳守）

■主催： 日本ブロンテ協会

社会状況により開催形態を急遽変更する場合があります。最新情報を協会ホームページにてご確認ください。

皆様お誘いあわせの上奮ってご参加ください。